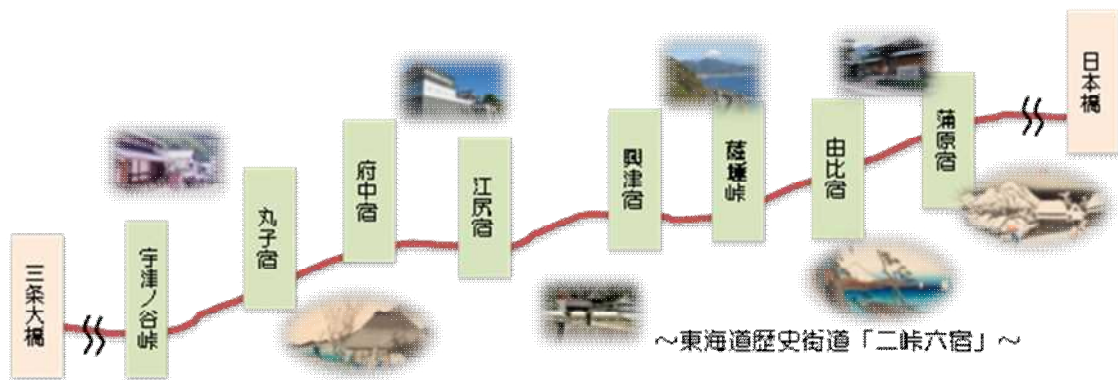


文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	静岡県静岡市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	静岡市の文化遺産を活かした地域活性化事業		
4 実施計画期間	平成 27 年度 ～ 平成 32 年度		
5 実施計画の概要			
<p><静岡市の概況と取巻く社会環境></p> <p>静岡市は、静岡県の中部地域に位置し、旧静岡市、清水市、由比町、蒲原町の合併により誕生した政令指定都市で、総人口は70万人を超えております。また、南アルプスユネスコエコパークの3,000メートル級の山々から、最深部では水深2,500メートルに達する駿河湾など、多彩な自然と生態系を有する地域です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="text-align: center;">  <p>駿府城</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>久能山東照宮</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>世界文化遺産「富士山」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>静岡浅間神社</p> </div> </div> <p>古来、本市には、これらの豊かな自然に彩られた生活が形成され、縄文時代の登呂（登呂遺跡）をはじめとした人々の交流による歴史文化が蓄積してきたものです。</p> <p>そして本市の礎が築かれた今川時代や徳川時代、特に徳川家康公が「駿府城」で大御所政治を担った時代には、国内有数の職人が「駿府」に集まり、「駿府城」の築造や「久能山東照宮」、「静岡浅間神社」などの造営が行われたのちに、職人たちが「駿府」に定住し、最高技術による工芸品を作ることとなり、現在の本市の伝統産業に繋がっております。東海道沿線では、参勤交代の際、多くの大名が徳川家康公を祀る久能山東照宮へ参拝したことにより、宿場町の住民との交流が生まれ、多くの文化が花開き現在につながっているものです。</p>			



しかしながら、現在、我が国の急速な人口減少と同じく、本市も人口減少や少子高齢化の進展に直面しているとともに、大御所時代によって花開いた歴史文化の継承や観光分野についても、伊豆箱根広域観光圏（東部と神奈川県）に観光客や宿泊客の大半が集中しており、歴史文化の継承の活動維持や地域活性化の担い手育成は、深刻な課題と捉えております。

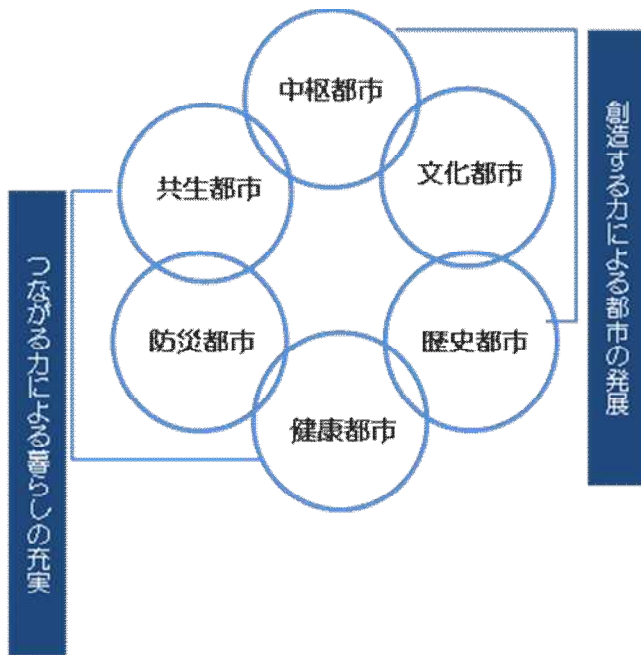
本市はこれらの深刻な課題に向き合うとともに、「悠久の歴史を誇りとして活かした風格のあるまちづくり」を推進することで、「世界に輝く静岡」の実現を図るため、次の中長期計画を策定しました。

<静岡市の中長期計画の概要>

平成27年度から平成34年度までの8年間を計画期間とした第3次総合計画を平成27年度に定め、本市の目標人口である平成37年に「70万人」の維持、基本構想に「世界に輝く静岡」の実現を掲げるとともに、その目指すべき都市像を以下の2つとしています。



また、これらの実現に向けて取り組むべき施策を次の6つの重点プロジェクトとして位置づけています。



特に、当文化遺産を活かした地域活性化事業の申請を行う「歴史都市」の分野は、「悠久の歴史を誇りとして活かした風格のあるまちづくりの推進」を目的とした右記の3つのプロジェクトにより構成され、本市の観光交流政策の1丁目1番地の事業であるとともに、駿府がもつ傑出した世界、日本に誇れる地域歴史文化遺産の活用による地域経済の活性化を謳っています。

1. 静岡浅間神社などと回遊性の向上を図りつつ、駿府城公園「桜の名所」づくりや、歴史文化施設の整備を進めるとともに、駿府城天守閣の再建を目指し、「サグラダ・ファミリア方式」による天守台の整備を推進します。

2. 旧東海道の沿線に点在している二峠六宿について、中世より多くの旅人が往来した歴史的景観の保全や、それぞれが持つ地域資源のみがきあげによる賑わいの創出など、約40kmにわたる「東海道歴史街道」の整備を推進します。

3. 世界文化遺産「三保松原」に、国内外からの観光客を受け入れ、世界に向け情報発信を行う「三保松原ビジターセンター」の整備を進めるとともに、三保半島に点在する地域資源との連携により、そのブランド価値の向上を目指します。

<本申請の位置づけと趣旨>

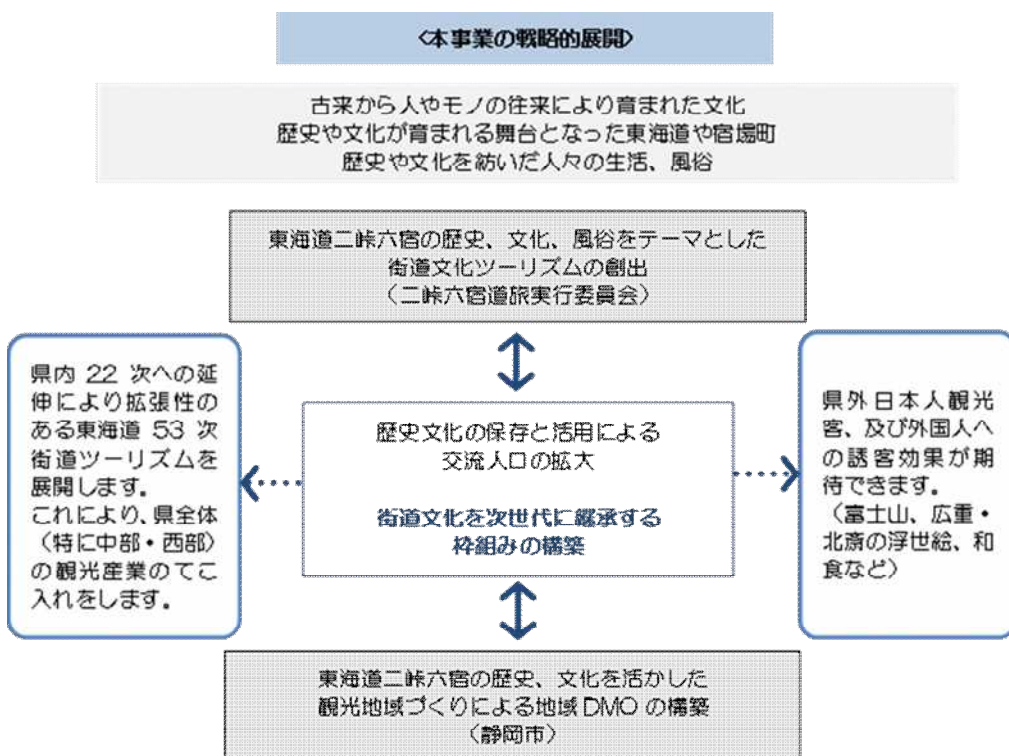
折しも平成27年度は、第3次総合計画のスタートであるとともに、「徳川家康公没後400年」に当たる年であり、市民や民間事業者、行政が家康公の偉業や功績を尊ぶイベントを実施し、その集大成たる9月の「すんぷ天下泰平まつり」では、延べ60万人にも及ぶ来訪者が、家康公の歴史に親しみ触れることとなりました。

本市はこのイベントを「400+」（始まりのはじまり）と位置づけ、次世代に家康公をはじめとする本市の誇らしい歴史や文化を継承し、さらなる発展を遂げ、100年、200年先の静岡市民が誇ることができる「歴史都市」となるべく、歴史文化を活かした地域活性化に望むものです。

その大きな目的意識の下、家康公四百年祭を通して結集した官民共同の推進体制をより強固なものとするとともに、当補助金を活用した質の高い事業実施と文化遺産継承を継続させていく必要があると考えます。

本年度につきましても当補助金を申請し、文化財を活かした観光誘客による地域活性化を図るとともに、民間事業者と地域住民の共同体制を強固なものとし、持続可能な文化財の保存・継承のプラットフォーム構築を目指していく所存です。

～東海道（二峠六宿）街道ツーリズム推進スキーム～

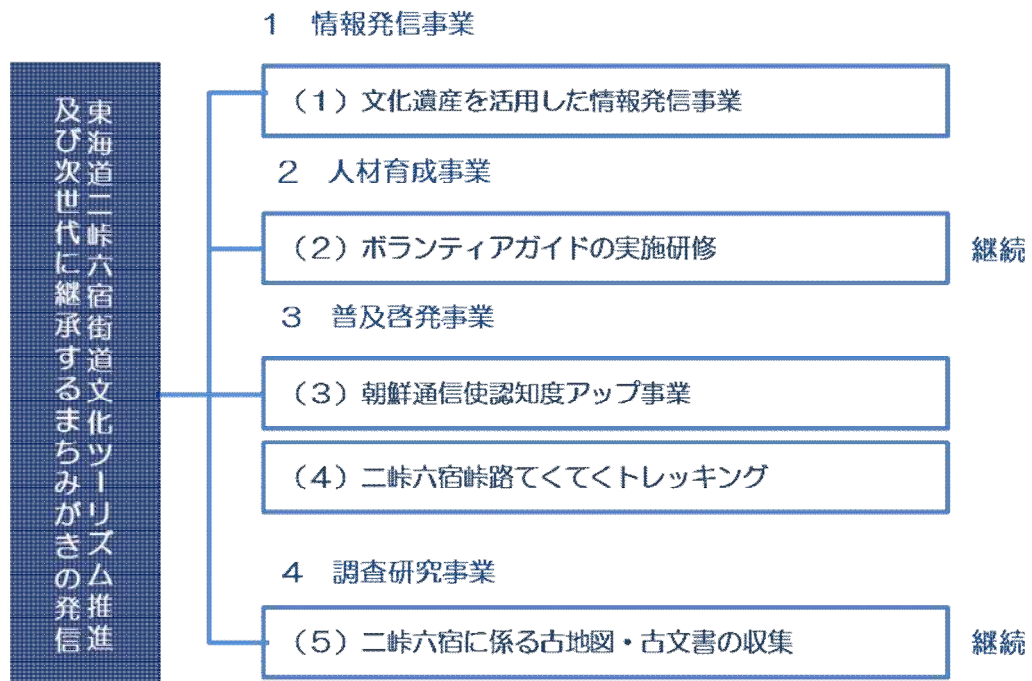


＜本申請事業への取組み方向＞

本申請による趣旨は、東海道二峠六宿に紡がれた歴史や文化の価値を次世代に継承する枠組みの構築であり、市は観光地域づくりにより、地域住民主体の内側からの枠組みを構築し、実行委員会はその民活（文化団体、商工観光団体、メディア等）のネットワークを最大限に活用した外側からの枠組みを構築していくものです。

また、構築する枠組みの形骸化を防ぎ、持続可能なものとするため、これらの歴史や文化を活用した観光プログラムを自らが立案し、交流人口を拡大させ、地域経済の活力を維持していくものでもあります。

<平成29年度文化遺産を活かした地域活性化事業の事業体系>



6 実施体制

本事業は静岡市第3次総合計画の実施事業の一環として位置づけ、静岡市は支援協力及び関連団体や他関連公共施設等の調整を行う。

<主な担当課>

静岡市 観光交流文化局 観光交流課 及び 文化財課 が連携して庁内調整を実施する。

- ・観光交流課：事業実施における各種調整支援、観光振興事業実施あたっての連携
- ・文化財課：文化財の取扱いに関する指導、文化財関連事業実施にあたっての連携

- ・事業の実施については次の団体が実施する。

「二峠六宿道旅推進実行委員会」

「⑤実施計画の概要」における施策事業の全てを実施。

<構成団体>

- ・NPO法人徳川みらい学会
- ・静岡商工会議所
- ・公益財団法人静岡市文化振興財団
- ・公益財団法人静岡観光コンベンション協会
- ・駿府ウェイブ
- ・静岡二峠六宿街道観光協議会
- ・株式会社静岡新聞社
- ・株式会社静岡鉄道
- ・東海道57次・中仙道67次交流館

<有識者>

- ・田中 孝治 (NPO法人日本風景街道コミュニティ理事)
- ・中村羊一郎 (静岡産業大学総合研究所主任研究員)

<オブザーバー>

- ・静岡市

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 30,439 千円	平成29年度申請額： 14,358 千円
(2) 実施事業の概要		平成29年度は、平成27年度、28年度に採択された事業「ボランティアガイドの実施研修」を申請するとともに、基本コンセプトに沿い、「文化遺産を活用した情報発信事業」、「朝鮮通信使認知度アップ事業」、「古地図・古文書等の収集」、「二峠六宿峠路てくてくトレッキング」の計5事業を申請いたします。	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>当事業を導入することにより、静岡市を中心とした地域に、下記の効果が期待できます。</p> <p>(1) 歴史・文化を活かした地域活性化のための気運醸成 ⇒地域内における貴重な歴史資源について、各事業を通じて意識醸成を図ることにより、歴史あるまちを誇りに思う市民の増加へとつなげる。</p> <p>(2) 持続可能な文化財の保存・継承活動のための人材育成 ⇒市民の文化財への関心を高めることを通じて、市民レベルでの文化財保存・継承およびそれを紹介する活動を実施できる人材を確保し、長期的に文化財を活用できる基盤を整える。</p> <p>(3) 文化財を活用した観光誘客による地域活性化 ⇒東海道二峠六宿の歴史資源をテーマとした観光プログラムの造成や、受入環境の整備を通じて、当地域における観光客の増加を図り、地域活性化へとつなげる。</p> <p>2. 効果の測定方法</p> <p>(1) 歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思える市民の割合（資料：第3次静岡市総合計画） 現状値（H26）：63.8%⇒目標値（H32）：71.3%</p> <p>(2) 地域の文化遺産における定点ガイド利用件数（資料：静岡案内人駿府ウェイブ実績） 現状値（H28）：33,500人⇒目標値（H32）：37,700人</p> <p>(3) 関連施設・イベント入込客数（歴史に触れ親しむ観光振興）の増加（資料：第3次静岡市総合計画） 現状値（H22～25の平均）：2,116千人⇒目標値（H32）：2,436千人</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	東海道歴史街道まち歩き推進事業（市自主財源）		
事業概要：	各宿場まつり等支援事業（市自主財源）		
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
現時点では「歴史文化基本構想」、「歴史的風致維持向上計画」ともに計画の見込はないが、将来的に策定・作成に向けて取り組みたいと考えている。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	静岡市観光交流文化局観光交流課		

様式 1 - 1 別紙①

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 1 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思 う市民の割合			関連事業:	①、③、④、⑤	
目標値 1 :	平成 26 年度	63.8 %	⇒	平成 32 年度	71.3 %	%
設定根拠 1 :	平成26年度から平成34年度までの一年ごとの増加目標である1.25%を参考に設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
64 %	%	%	%	%	%	%
-1%						
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	地域の文化遺産における定点ガイドの利用件数			関連事業:	②	
目標値 2 :	平成 28 年度	33,500 人	⇒	平成 32 年度	37,700 人	
設定根拠 2 :	平成28年度の定点ガイド利用件数を基準に、前年度比3%増/年として目標設定。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
33,500 人	人	人	人	人	人	人
0%						
目標区分 3 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 3 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	関連施設・イベント入込客数 (歴史に触れ親しむ観光振興)			関連事業:	①、③、④	
目標値 3 :	平成 26 年度	2,116 千人	⇒	平成 32 年度	2,436 千人	
設定根拠 3 :	第3次静岡市総合計画の平成34年度目標を参考に、目標値を設定 (数値確定が翌年度の10月頃となるため、H28実績については見込数を入力)					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
2,254 千人	千人	千人	千人	千人	千人	千人
43%						

